

平成 2 9 年度第 9 回定例会

八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	平成 2 9 年 9 月 1 3 日（水）	午前 9 時 3 0 分
場	所	八王子市役所 議会棟 4 階	第 3 ・ 第 4 委員会室

第9回定例会議事日程

- 1 日 時 平成29年9月13日(水)午前9時30分
 - 2 場 所 八王子市役所 議会棟4階 第3・第4委員会室
 - 3 協議事項
 - ・市立中学校生徒に係る事故への対応について (指導課)
 - 4 報告事項
 - ・平成29年度夏季休業中における部活動の関東・全国大会出場結果について (指導課)
 - ・平成29年度北海道白糠町小学生交流事業の実施結果について (生涯学習政策課)
 - ・市制100周年記念事業ビジョンフォーラム「スポーツ推進フォーラム」の実施結果について (指導課・スポーツ振興課)
 - ・市制100周年記念事業「オリンピックによる水泳教室」の実施結果について (スポーツ振興課)
 - ・こども科学館リニューアルオープン後の利用状況について (こども科学館)
 - ・市制100周年記念事業姉妹都市図書館交流展示の実施結果について (図書館部)
-

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	星 山 麻 木
委 員	村 松 直 和
委 員	柴 田 彩 千 子
委 員	大 橋 明

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	廣 瀬 勉
学校教育部指導担当部長	山 下 久 也
教 育 総 務 課 長	小 林 順 一
学 校 教 育 政 策 課 長	橋 本 盛 重
学校複合施設整備課長	内 野 茂 樹
施 設 管 理 課 長	松 土 和 広
保 健 給 食 課 長	野 田 明 美
教 育 支 援 課 長	穴 井 由 美 子
指 導 課 長	中 村 東 洋 治
教 職 員 課 長	廣 瀬 和 宏
統 括 指 導 主 事	佐 藤 晴 美
統 括 指 導 主 事	野 村 洋 介
生涯学習スポーツ部長	瀬 尾 和 子
生涯学習政策課長	平 塚 裕 之
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	坂 口 崇 文
ス ポ ー ツ 施 設 管 理 課 長	佐 藤 晴 久
学 習 支 援 課 長	新 井 雅 人
文 化 財 課 長	中 野 み どり
こ ど も 科 学 館 長	叶 清
図 書 館 部 長	石 黒 み どり
中 央 図 書 館 長	太 田 浩 市

生涯学習センター図書館長	新堀 信晃
南大沢図書館長	安達 和之
川口図書館長	福田 秀之
指導課指導主事	上野 和広
指導課指導主事	加藤 則之
指導課主査	和田 嘉代
生涯学習政策課主査	杉山 浩一
スポーツ振興課主査	野村 泰史
中央図書館主査	佐藤 朋子
教育総務課主査	堀川 悟
教育総務課主事	廣瀬 桃子
教育総務課主事	池上 光
教育総務課嘱託員	古瀬村 温美

【午前9時30分開会】

安間教育長 大変お待たせをいたしました。

本日の出席は5名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより平成29年度第9回定例会を開会いたします。

本市では地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。本定例会においても、照明の一部消灯や職員のクールビズを実施いたしておりますので、御理解いただきますよう、お願いいたします。

本日の議事録署名委員の指名をいたします。

本日の議事録署名委員は、村松直和委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

さて、本日の議事日程でございますが、協議事項の「市立中学校生徒に係る事故への対応について」につきましては、今年9月1日金曜日に、市内中学校で発生をいたしました、中学2年生の女子生徒が音楽室から飛びおりた事故に係る対応等の協議となります。教育委員会では、これまで数回の臨時会を開催いたしまして対応等について協議をしまいましたが、本定例会においても引き続き協議を行うことといたします。

なお、本協議事項につきましては審議内容が個人情報に及ぶため、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項及び第8項の規定により非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

安間教育長 御異議ないものと認めます。

安間教育長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

報告事項となります。

まずは、指導課から報告をお願いします。

中村指導課長 平成29年度夏季休業中における部活動の関東・全国大会出場結果について御報告いたします。詳細につきましては、和田主査から御報告いたします。

和田指導課主査 それでは、平成29年度夏季休業中における部活動の関東・全国大会出場結果について御報告をいたします。お配りしております資料にそって御説明

をいたします。

資料 1 枚目、A 4 判を御覧ください。今回御報告いたしますのは、夏季休業中に行われました部活動の関東大会・全国大会の出場と結果を報告するものでございます。出場状況は、関東大会まで出場した者は個人で 19 名、7 競技。具体的には卓球、柔道、水泳、少林寺拳法、陸上競技、バドミントン、体操の 7 競技でございます。全国大会に出場した者は、個人で 10 名、5 競技。新体操、柔道、水泳、少林寺拳法、バドミントンの 5 競技で、団体は 3 チーム、3 競技。バスケットボール、陸上競技、少林寺拳法でございます。

詳しい結果につきましては、1 枚めくっていただきまして別紙資料 A 3 判の一覧表のとおりでございます。表の左から学校順に競技、大会名、結果となっております。区分から 2 段書きになっているものにつきましては、上段が関東大会、下段が全国大会で、両大会に出場しているものでございます。

具体的に御説明いたしますと、左の番号で 1 番、第一中学校のバスケットボール部女子ですが、関東大会で優勝し、上位大会である全国大会に進み、予選を勝ち上がり、決勝トーナメントに進みましたが、2 回戦敗退、ベスト 8 でございますが、このような結果にあります。

また種目によりましては、競技の上位大会への出場につきまして、さまざまでございます。大会によりましては違ってきますので、関東大会の成績が優秀でも必ずしも全国大会に出場できない場合もございます。番号で言いますと、1 枚めくっていただきまして裏面の 13 番でございます。栢田中学校の水泳ですが、関東大会の出場はございませんが、全国大会に出場し、結果は予選 22 位となっております。関東大会への出場がなく、全国大会に出場しておりますが、これは都の大会の結果によって、その時点で関東大会への出場者、全国大会への出場者と別れて出場する競技もございます。

このように、多くの本市の生徒が関東大会・全国大会に出場できたことは大変喜ばしいことと思っております。教育委員会としましては、大会出場にかかる費用の交通費、宿泊費、大会参加費等を生徒派遣費として補助しております。

また、今年度の表彰対象として年度末には御審議いただくことになるかと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。今後も部活動におきましては、外部指

導員の配置や生徒派遣費の補助といったことを通じて部活動の充実を図ってまいりたいと思います。

報告は以上でございます。

安間教育長 只今指導課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

大橋委員 御説明ありがとうございました。教育委員会の御支援と、各学校での指導の結果、非常に充実した結果が出ているのではないかなというふうに思いました。

今いただいたのは運動部活動なのですけれども、文化部、文化的な活動のほうはいかがでしょうか。

和田指導課主査 現在御報告しているのが夏季休業中に行われる大会結果となっております。主に運動部の活動になっております。文化部につきましては秋以降、吹奏楽などのコンクールがございますので、夏季休業中に行われた文化部の出場結果というのは、ない状況でございます。

安間教育長 よろしゅうございますか。ほかに。

村松委員 14番の加住中の少林寺拳法、随分皆様出場されていて喜ばしいのですけれども、加住中は少林寺拳法部というのがあるのですか。

和田指導課主査 部としてございます。

村松委員 そうなりますと、関東大会・全国大会にも出ていらっしゃるけれども、関東の中学校って少林寺拳法部というのはいくらあるものなのですか。

安間教育長 今、分かりそうですか。

和田指導課主査 正確な数字はわかりませんが、数自体は少ないかと思えます。と言いますのは、中体連の組織の中に少林寺拳法というのはいませんので、別組織となっておりますので、学校数等はかなり少ない状況かと思えますが、八王子の中では少林寺拳法部があるのは加住中学校だけでございます。

村松委員 ありがとうございます。また、年末の審査対象のこともありますので、その辺を調べていただければと思います。

安間教育長 ほかに委員の方々ございませんか。

柴田委員 八王子の中学生が、このように好成績をおさめられましたことをとても喜ばしく思います。

コーチ、指導員について伺いたいのですけれども、先ほど教育委員会として指導員への補助というようなこと、そういう支援も行っているというふうに説明を受けましたけれども、具体的に、どういう補助をしているのかということと、それから、現場の学校から寄せられる部活動指導への補助の要望、支援の要望の内容というものが、もしありましたら教えていただきたいと思います。

和田指導課主査　　まず、補助としましては、先ほど少し申し上げましたが、各大会に参加する市の大会や東京都の大会への交通費及び大会に参加するに当たりまして参加費というものがかかりますが、そういったものを参加する際には補助しております。

また、日々の練習などでは、顧問の先生方の指導に加えて、専門性がある競技もございますので、各学校へ外部指導員ということで予算を配当しておりまして、各学校でなかなか技術的な指導が難しい部につきましては、外部の方に指導をお願いできるような形で、謝礼ですけれども補助をしているところでございます。

次に、学校のほうの要望ですが、やはり専門性の高いものもございまして、指導になかなか苦労されているということがあるかと思えます。ですので、外部指導員の各学校への予算ですけれども、学校が望むような十分な金額というのは予算にも限りがございます。学校のほうからは、もう少し増やしていただけないかというようなことでは、要望が挙がっているところでございます。

柴田委員　　ありがとうございました。

安間教育　　ほかにございましょうか、よろしゅうございますか。

最初に村松委員がおっしゃったことは鋭いなと思いました。要は、これ単に分析するだけではなくて、今の柴田委員との話もあるのですが、学校が主体で、教員が指導して、好成績を上げた事例、例えば第一中学校などは、そうなのでしょう、学校の部活で学校の職員がやっている部分というのが大きいのでしょうかけれども、例えば水泳だとか、今御指摘のように少林寺拳法は、まさに専門ですから、外部の方のお力が大きいでしょう。

そういったお力を借りているものと、学校の教員が指導しているものを仕分けして、1回分析をしておいてもらえませんか。柴田委員から話あったように、今後の中学校の部活動のあり方というのは徹底的に研究をしていかなければいけないと思

いますので、学校が単独でできることと、そうではなくて地域の力を生かして、地域の方々もしくは地域スポーツの中で、こうした成績をもつものというようなものというのを、1回整理しておく必要があるかなというふうに思うのです。

いずれにせよ、中体連なり何かの組織が学校に所属していて、仮でもいいから教員の顧問がいないと出場できませんよ、などと言うから、こういう状態が起こっているわけで、それについては国の情勢も変わりそうですから、前もってこちらでしっかりと状況の分析をしておきましょう。

安間教育長　それでは、続きまして、生涯学習政策課から報告をお願いします。

平塚生涯学習政策課長　それでは、平成29年度北海道白糠町小学生交流事業の実施結果について報告をさせていただきます。詳細につきましては、杉山主査から報告いたします。

杉山生涯学習政策課主査　それでは、平成29年度北海道白糠町小学生交流事業の実施結果について御報告いたします。報告資料とあわせて御覧いただきたく存じます。

本事業は、八王子千人同心による開拓という歴史的経過がつながりのある北海道白糠町の小学生と本市の小学生との集団生活や各種施設等への見学を通じて、相互理解や友情を育むことを目的としております。この事業は平成11年度に事業開始以来、今年度で19回目の開催を迎えることとなりました。

続いて、今年度の事業について御説明いたします。事業の核となる宿泊の交流事業は1年置きに白糠町と本市とを交互に訪問し合うことにしており、本年度は本市で白糠町の小学生を受け入れる年でございます。日程は8月2日から8月5日までの3泊4日、高尾の森わくわくビレッジを宿泊地として市内の各地を見学いたしました。見学地の設定については、本市ならではの自然や歴史、文化に直接触れられるところを念頭に選定いたしました。

また、八王子千人同心に対する理解を深めるため、本市の参加者を対象に事前研修を行っております。

次に、参加者でございます。(2)にお示しのとおり、本市と白糠町の小学5・6年生各15人ずつ、計30名が参加いたしました。本市の参加者につきましては6月に参加希望者を募集し、19名の応募があったところでございます。

続いて参加者の感想でございますが、感想文から特に印象に残ったものとして、

車人形の体験や八王子まつりの見学についてのことが多く寄せられました。本事業は千人同心による歴史的な交流ということテーマにした事業ということで、それに対して応募した小学生ということもあろうかとございますが、歴史的なものに対する関心の高さがうかがえたところでございます。

なお、参加者の感想文につきましては後日文集としてまとめますので、ご覧いただければ幸いです。

事業の成果についてでございますが、八王子千人同心の功績の継承、本市の自然や歴史、文化に対する体験学習、白糠町と本市小学生同士の交流、いずれにつきましても初期の目標を達成できたものと考えております。

最後に、裏面に交流事業の様子を掲載してございますので、御覧いただければ幸いです。

以上、報告を終わります。

安間教育長 只今生涯学習政策課からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

では私から、去年は白糠町に行ったわけですね、去年5年生として参加していて、今年は受け入れとして6年生に回った子などというのは何人ぐらいいますか。

平塚生涯学習政策課長 4名です。

安間教育長 ありがとうございます。

そうすると、今年受け入れた5年生の子は、来年6年生になって白糠町に行くと、そんな交流になるわけですね。全員がというわけではないでしょう、大体どれぐらい行かれるのですか。

平塚生涯学習政策課長 今年も実際参加した後、5年生からは来年もぜひ、私、北海道に行きたいというような話が出ていますので、またぜひ応募してくださいという声かけをしています。大体5年生・6年生、半分ぐらいの構成をしておりますので、もし今年参加した人が全員、また来年6年生で募集をいただければ、6名、7名、8名来年も参加になるかと思いますが。

安間教育長 機会を広げてあげたいのだけれども、同時に行って帰ってという両方も経験させてあげたいし、そこら辺のバランスが難しいのだろうと思いますが、この派遣の人数を増やすなどということは無理なのですか。

平塚生涯学習政策課長 一定の集団行動、今30人規模ですので、大人のスタッフ等々、また事業のコンパクトさを考えると、これ以上人数が増えるというのも課題になるのかなというふうに考えているのです。

実は、今年も2年間交流した子どもで北海道白糠町の意見からも、中学生の交流事業をやってほしいというような、そんな声も上がっていますので、何らか広がるような展開は考えていきたいなと思っております。

安間教育長 ありがとうございます。いい経験だから、子どもたちの機会を広げてあげたいし、また子どもたちもどんどん継続したいという思いもあるのでしょうか、そこら辺が事業の全体の設計とのバランスで、よりよい方向に考えていってください。

委員の方々からほかにございますか。

星山委員 私、たまたま出会って、この事業をなさっている当日に。もちろんですけれども、どちらが八王子の子どもたちで、どちらが白糠町の子どもたちかわからないくらい、とても楽しそうに過ごしていて、とてもいい事業だなというふうに思いました。

今出ているように、これに参加できた子どもたちはとてもよかったなと思いますが、また、この事業がせっかく長年続いているのでしたら波及効果を狙ねらうというか、いろいろな形で伝えていただけたらありがたいなというふうに思いました。

安間教育長 ありがとうございます。

柴田委員 お疲れさまでした。

感想になりますけれども、この白糠町の小学生との交流事業に、まず学生が2名、八王子市在住の学生がスタッフとして貴重な体験をさせていただきましたとお礼申し上げます。御指導ありがとうございました。

その学生から聞いたのですが、ここに参加している小学生がとてもしっかりしているということで、自分の意見を表明できて、八王子に対する郷土愛の強い子どもたちで、自分たちのほうが学んだというふうに聞きました。多分、こういうところで八王子についての歴史を学んで、いろいろな体験をして、愛着をもった子どもたちが、例えば成人式の実行委員になったりとか、八王子のリーダーとして育っていくのかなというような印象を受けましたので、ぜひ中学生になっても引き続き八王

子として、そういう方を育てるといふようなこともやっていただければいいのかな
というふうに感じました。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかに委員の方からございますか、よろしゅうございますか。

それでは、本件も報告として承っておきます。

続きまして、スポーツ振興課から2件、報告をお願いいたします。

坂口スポーツ振興課長 それでは、市制100周年記念事業ビジョンフォーラム「ス
ポーツ推進フォーラム」の実施結果について御報告させていただきます。詳細につ
きまして、初めにスポーツ振興課から当日のフォーラムの概要について御報告させ
ていただき、その後、指導課から本市の中学生2名がパネルディスカッションに参
加されたため、その内容について御報告させていただきます。

野村スポーツ振興課主査 それでは、市制100周年記念事業ビジョンフォーラム
「スポーツ推進フォーラム」の実施結果について御報告いたします。

それでは、資料及び別紙A3横の資料をご覧ください。市制100周年記念事業
として行うビジョンフォーラムの一つとして、スポーツ推進フォーラムを平成29
年8月19日、土曜日に、八王子市芸術文化会館（いちようホール）にて開催いた
しました。当日の参加者は413名となっております。

まず、第一部では「スポーツがもたらす多面的効果」について法政大学スポーツ
健康学部教授の山本先生による基調講演が行われ、ルールを守り、相手を尊重する
姿勢やチームワーク、熱意など、スポーツを通じて得られる効果についてお話しさ
れました。

続きまして、第二部では、元女子バレーボール全日本代表の大林素子さんやスポ
ーツコメンテーターでシドニーオリンピック銅メダリストの田中雅美さんなど、八
王子にゆかりのあるパネリストをお招きし、また市内中学生代表2名にも参加して
いただき、スポーツで変わる八王子の未来と題し、パネルディスカッションを開催
いたしました。当日の詳細については、別紙資料スポーツ推進フォーラム速記記録
を後ほどご覧いただきたいと思っております。

私からの報告は以上となります。

加藤指導課指導主事 それでは、私からは中学生の事前ワークショップを中心に御説

明いたします。

指導課からの報告事項資料をご覧ください。

初めに一点訂正がございます。表側の2番、報告内容(1)から番号が記されているのですが、(2)、(3)、次が(5)と飛んでおります。こちら(4)と訂正をお願いいたします。

スポーツ推進フォーラムの第二部、専門家によるパネルディスカッションを開始する際に、市立中学校第2ブロックの代表生徒2名から事前に行ったワークショップでのスポーツについての話し合い内容の報告がございました。その報告からキーワードを切り取って、2名の中学生も参加してディスカッションが行われました。

資料の裏面をご覧ください。事前に行われたワークショップには、第2ブロックの中学校から代表生徒が2名ずつ参加して、スポーツの魅力というテーマで話し合いを行いました。その後、出てきた意見を三つの視点に絞り、二つのグループごとに意見を出し合い、考えをまとめました。

グループ1では、そちらにございますように、練習の成果が出る、達成感を共有できる、自覚や責任感が生まれるなどの意見をもとに、スポーツの持つ違う世代でも仲が深められる、という魅力を伝えるには、講演会や大会が必要だと考え、スポーツをしやすい環境をつくれれば、八王子はもっと魅力ある街に変わるとまとめました。

グループ2では、協調性が身につく、努力の成果が出る、支えてくれる人の大切さに気づくなどの意見から、スポーツには、達成感を味わえるという魅力があり、たくさんの人たちにスポーツに興味をもってもらうため、地域の人たちと協力し、初心者の方でも達成感を味わえる講演会や体験会を開くことが必要だと考えました。その講演会や体験会に参加しやすい工夫や環境づくりをすれば、八王子はもっと魅力ある街に変わるというまとめがございました。

再度表にお戻りください。2、報告内容の(2)ワークショップの報告内容です。こちらは御説明しました二つのグループの意見をまとめ、フォーラム当日2名の代表生徒が発表したものです。その2名の代表生徒の感想が(3)として、参加した中学生の感想としてございます。

最後(4)としましては、アンケートの主な感想を記載いたしました。著名なパ

ネリストに交じって堂々と発表する中学生の姿に感心された方もいらっしゃいました。

以上、私からの報告を終わります。

安間教育長 報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか、いかがでしょうか。

それでは私のほうから。この100周年記念事業のビジョンフォーラムは八つのテーマがあって、その八つ全部に中学生は参加したのですよね。

加藤指導課指導主事 はい。

安間教育長 これは委員の皆様には報告なのですが、毎年毎年、子どもたちの活躍の場を多く設定しようという意見を教育委員会にいただいておりますけれども、この100周年記念事業で、八つビジョンフォーラムをやるぞという話があった時、教育委員会の我々のほうから名乗りを上げて、ぜひ中学生を参加させてくれという感じで割り込む形で参加させていただきました。非常に私は成果があったなというふうに思っています。

特に私もスポーツ推進フォーラムに出演した二人はしっかりしていて、大人顔負けの意見が言えて、一つには市民の皆様方に中学生、なかなかやるなという、結構いけるじゃないかというような印象を持っていたのではないかなと思いますし、同時に中学生側のほうを見ますと、自分たちも、こうやってきちんと意見が言えるのだという自信にもつながったと思いますから、ぜひ100周年記念事業というよりは、我々教育委員会としても委員さんの皆様方が中学生の活躍の場、小学生の活躍の場をどんどん増やそうというのは一致した思いですから、ぜひ、こういうような機会を逃さずに活躍の場を広げるようにしていきましょう。

また、ぜひ市民の皆様方も、そういう場があるのだったら、今度中学生にもっといい場をつくってあげてもいいのではないかなという、そんな御意見が多くなってくると、我々も嬉しいなと思います。

二つ目が、このスポーツ推進フォーラムの中身の件なのですが、昨年校長会等でもお話をいただいたのですが、八王子市は市町村体育大会で10連覇をしている強い市なのです。そんな話をしたら、子どもたちは知らないのです。私は中学生には、先ほどの部活動の話もありますが、皆様たちの先輩の八王子市民は、この市

町村の中では、今年は11連覇をしたそうですが、11連覇をするぐらいすごいのだぞというようなことを伝えて、自分たちの運動が中学校で終わってしまったり、高校で終わってしまったりするのではなくて、その後もずっと、そういう団体があるのだったら、今度卒業した後、市の陸上競技部に入ろうよとか、そういうふうにつなげていくような取り組みというのが必要なのではないかなということを感じておまして、これも先ほどの部活動の振興とあわせて、これから学校には呼びかけていきたいなどということをおもっています。

二つほど感想を述べさせていただきましたが、委員の皆様方から何かございせんか。

柴田委員 資料のワークショップのまとめの部分に、中学生が話し合った内容が書かれています。そこに例えばスポーツに関わる講演会や体験会に参加しやすい工夫や環境づくりをすれば、八王子はもっと魅力ある街に変わることができると思いますが、中学生が考える理想のこういった環境とは何かというか、このことについてもっと掘り下げて中学生から提案してもらえたら、それをまた大人が検討するというような、中学生と大人の双方向的なやりとりというのもおもしろいのかなというふうに思いますので、もし次、こうしたワークショップをやる時には、事前に出た意見を踏まえてのワークショップの内容というものも検討していただければ幸いです。

安間教育長 ありがとうございます。

ちなみに、そこらへん具体は出ていたのですか、どんなものが参加しやすいのかなどというのは具体的には出ていましたら紹介してください。

加藤指導課指導主事 特に子どもたちから出たということではなく、この子どもたちの意見をもとに、当日パネリストの方がお話をしてくださったというような流れでパネルディスカッションは進みました。

安間教育長 では、今の柴田委員の発言で、今後の機会の時に、どんなものがあたらいいのということを具体的に中学生に聞いてあげるような、ぜひ工夫をしてください。

ほかに委員の方からございますか。

星山委員 中学生が主体的に参加する機会が増えたというのは、とてもいいことだな

というふうに思いました。やはりスポーツって皆がつながりやすいものですし、時に小学生、中学生、それから生涯学習としても、多世代、子どもたちが出しているようなことでつながっていて、とてもいいと思います。

一つお願いというか私の専門と関係あると思うのですが、今度オリンピックもあります、スペシャルオリンピックであるとかパラリンピックであるとかって、スポーツって全ての人のためにあると思うのです。ですから、そこもぜひ小学生、中学生の皆様を始め、子どもたちが勝つことは大切だし、それから選ばれた人がより活躍することも大事なんだけど、一方で全ての人にとって、どうしたら楽しめるかとか、どうやってルールを変えたり、声かけを変えることで気持ちよく過ごせるかとか、ぜひそういう視点も入れていただけると、より教育的な広がりのあるスポーツになるかなというふうに思いましたので、また今後機会ありましたら、ぜひお願いしたいなと思います。

以上です。

安間教育長 ありがとうございます。今の視点も、事業に活かしてください。よろしゅうございますか。

それでは、引き続きスポーツ振興課からお願いをいたします。

坂口スポーツ振興課長 それでは、続きまして、市制100周年記念事業「オリンピックによる水泳教室」の実施結果について、野村主査から御報告させていただきます。

野村スポーツ振興課主査 それでは、市制100周年記念事業「オリンピックによる水泳教室」の実施結果について御報告いたします。

市制100周年記念事業として八王子100年応援団団員でシドニーオリンピック銅メダリストの田中雅美さんを講師にお招きし、平成29年8月23日水曜日に中央大学にて水泳教室を開催いたしました。

まず、第一部では屋内25メートルプールにて市内在住・在学の小学4年生から中学3年生の44名が参加し、六つのグループに分かれ、約1時間実技指導が行われました。

続いて第二部の講話では場所を教室に移動し実施いたしましたが、田中雅美さんが経験されたオリンピック競技やオリンピック選手村の出来事などについてお話し

され、参加した子どもたちや保護者の方々も興味津々で聞いている様子でした。

また最後には、田中雅美さんの御厚意でサイン入り水泳グッズを御用意していただき、じゃんけん大会も行われ、会場は大いに盛り上がり、水泳教室は無事に終了いたしました。

報告は以上となります。

安間教育長 報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか。

村松委員 こちらのオリンピックによる水泳教室の参加者が44名ということなのですけれども、募集は確か60名だったですね。

野村スポーツ振興課主査 そのとおりでございます。募集の人員については60名ということで募集をさせていただいておりました。

村松委員 私の感覚ですと、田中雅美さんが水泳の教室を実施してくださるということで、小学校4年から中学3年までの募集をかけて44名というのは、ちょっと寂しいなという感じもするのですが。先ほどのワークショップの講演会や大会が必要だと感じた中学生が考えたように、ちょっと募集のやり方みたいなものが何かちょっと違うのかなと思うのですけれども、何か人数を区切ったから逆に集まらなかったような感じもするのですけれども、欠員が出ているというのは何かスポーツ振興課さんで何か考えていますか、その理由は。

野村スポーツ振興課主査 その点につきましては応募の結果を見させていただいたところ、かなり競技力の高い子どもたちの参加だということが見受けられました。恐らく募集要項を見たところ、いわゆる初心者といいましょうか、そういった方たちが参加しにくいような状況だったように、後から気づいたところでございます。

その点が、結果的には募集定員には満たなかったところかというふうに感じております。

村松委員 それは田中さん側が、そういう少し上級者向けにしてくださいということだったのですか。

野村スポーツ振興課主査 今回は初めての事業ということもございまして、講師でございませう田中雅美さんと調整をさせていただきまして、まずは初めての試みということもございませうので、競技力の高いようなところの、実際には25メートル以上

泳げる方ということで募集を限定させていただきました。

村松委員 25メートル泳げるということで募集をかけていらっしまったように思いました。

先ほどのビジョンフォーラムのワークショップを踏まえて、講演会や大会が必要だと感じて、異なる世代間でも仲が深められるような、そういうスポーツしやすい環境というふうに子どもたちも言っていますので、次回、またそういう機会がありましたら、ぜひ田中さんと、また協議していただいて、みんなが水泳に親しむ。そういう取り組みでやっていただければなというふうに思いました。

安間教育長 ありがとうございます。

ほかに御意見ございますか、よろしゅうございますか。

また、今募集のお話ありましたけれども、キャパの問題と、どれぐらいのニーズがあるのかというのは別の話ですから、そこらへんはぜひ中身を、今後やる時に検討してください。

また村松委員の自慢をさせていただきますが、市制100周年記念事業は、この12月には今度はキャッチボールクラシック。教育委員会の認定事業として今準備を進めておりますから、そちらも、ぜひ広報の際に、少々ボールを投げられなくてもいいのですから、そんな子でも集まれるように、我々が集まり過ぎてしまって困ってしまうなと思うぐらい、ぜひ広報をしてみてください。

よろしゅうございますか。

それでは、スポーツ振興課からの2件の報告、承っておきます。

続きまして、こども科学館から報告をお願いします。

叶こども科学館長 それでは、こども科学館のリニューアルオープン後の利用状況につきまして御報告申し上げます。お手元の資料を御覧ください。

まず報告の趣旨ですが、7月22日土曜日のリニューアルオープン後、8月31日までの小・中学校夏季休業期間中、この間は全日開館をしておりました。この間のこども科学館の利用状況につきまして、速報値として御報告させていただくものです。

続きまして2の報告内容です。

まず(1)入館者数。この間会館日数41日間で延べ2万9,360名の方に入

館していただくことができました。その内訳は、有料の入館者が2万4,232名、無料入館者が5,128名となります。1日平均にしますと、平成28年度の407名に対し、今年度は716名となりました。

続きまして、次ページの表とグラフを御覧ください。比較を容易にするために、曜日ごとの比較ということで表をつくっております。リニューアルオープン後、2回目の土日となります7月30日、31日あたりからおおむね1日1,000人を超えるお客様に御利用いただくようになりました。そして8月11日ごろから始まりますお盆のころ、一番混むのですが、毎日1,000人を超すお客様でにぎわいました。このころになりますと駐車場に停めてある車のナンバーも、北は旭川から南は鹿児島まで、全国津々浦々から多くの方に御来場いただきました。その後、9月に入りまして入館者数は落ちついてまいりましたが、午前中は小・中学校の理科の学習番組の投影で多くの児童・生徒さんでにぎわっております。本日も3校の小・中学校の方が御来館していただいております。

また、この間、比較をしますと、28年度に対しての人数、1万6,711名に対し2万9,360名と来館者数は1.76倍という数値になりました。

それでは、もとの資料1ページにお戻りください。(2)の有料入館者数の利用状況について分析をいたしました。ここで母数となる数字は2万3,415名となります。前述しました有料入館者数2万4,232名のうち観覧券のみ、これは同じ日にもう1本プラネタリウムを見たいなというお客様が観覧券をお買い求めになった人数と、そして、この後御説明させていただきますトワイライトプラネタリウムの観覧、そして年間パスポート購入者の再来館者の数字を除いた数字が母数になっております。この利用状況の内訳を見ますと、料金改定をしまして50円ほど料金設定はお得になりました入館観覧セット券の売り上げが約65%近くを占め、入館券のみの御利用の方はおおむね33%、三人に一人という形になりました。そして、これまでは入館料のみの年間パスポート、定期入館券というものが年間おおむね30名ぐらいの売り上げでしたが、この間だけで90名を超える売り上げがございました。そして、新たに設けました入館券とプラネタリウムの観覧をセットにした年間のパスポートを384名の方に御利用いただくことができました。

続きまして(3)の定期入館券、年間パスポートの発行状況と、その利用の状況

について分析を行いました。

まず、アの入館券のみの利用ですが、発行人数は子どもが38名、大人は54名の計92名。この方々に対し、その後どのくらい利用していただけたのかということをお調べしたところ、子どもが52名、それから大人が53名、計105名となりました。再来館率として114%程度になりました。これはおおむね年間パスポートをお買い求めになった方が、この期間中にもう一回以上、お越しになっていたという結果でございます。

続きまして、イは入館とプラネタリウム観覧券の年間パスポートの購入者の方です。この間の発行は、子どもが199名、大人が185名の計384名です。その後の利用は、子どもは165名、大人が140名で計305名の方にお越しいただきました。再来館率は79.4%、約80%の方が券をお買い求めいただいた後、再度お越しいただいているという結果が出ました。

続きまして(4)の新規事業として行いましたトワイライトプラネタリウムの利用状況でございます。これは毎月1回、土曜日の夕方、主に大人を対象とした番組を投影するもので、8月に初めての上映となりました。8月19日の土曜日に国際宇宙ステーションからの眺めという番組を投影したところ、87名の方々に御来場いただくことができました。当日は開場の30分ほど前から激しい雷雨がありまして、開催できるかどうか、また、電源が落ちるのではないかと、またお客さんが集まらないのではないかと不安もありましたが、87名の方にお越しいただきました。

人数もさることながら、お客様の層を見ていきますと、例えば20代の男女のグループ、それから若いカップルの方、20代の男性の二人組、そして熟年の御夫婦の方といったように、これまで館で見ることのできなかつた属性の方々が多数お見受けできました。そういう意味では、新たな層の掘り起こしということにはつながったのかなと考えております。今後も、この企画をどのように続けていくか、いろいろ検討をしながら続けていきたいと考えております。

それから、多くの方に御来場いただく一方で、先日も村松委員さんからも御指摘いただいたように、館の展示では、順番待ちでなかなかゲームをすることができないという、そういう声も寄せられております。現在は1階の夢ロケットの中にあり

ますシミュレーションゲームも、混んでいる時にはミッションクリアかタイムアップで次の人に交代してねという掲示をさせていただき、職員も注意を払うようにしております。

今回の報告は、オープンから1カ月半程度の短期の期間についての御報告とさせていただきますましたが、今後も年間ベースでの比較・検証をしながら報告をさせていただきたいと考えております。

今後も繰り返し多くの方に御来場いただけるような企画を考えて対応していきたいと考えております。

報告は以上です。

安間教育長 以上、報告は終わりました。

委員の方から何かご質疑、御意見等はございませんか。

村松委員 御報告ありがとうございました。

最近、こども科学館の館長さんの笑顔が増えていると思います。本当に嬉しい限りで、八王子市が他市に誇る科学館ということで、本当に私もうれしい限りです。

最近、小学校・中学校のPTAの連合会の会合に出させていただいていて、とても好評です。

また、下は子どもさんが主に遊びますけれども、上が少し大人の模型が展示してあったり、そういういろいろなコンピュータに触れて楽しいと。

また、青年会議所さんの会議にも出させていただきましたが、そちらのほうでもすてきなものができたと、大人でも楽しめるねということで、これが夏休みは本当に大変好評だったと思うのですが、ぜひ9月、10月、11月、また休みに入るまでに、いろいろ周知をしていただいて、いろいろなお子さん、赤ちゃんですとか未就学児の方たちも楽しめるように。入り口の混みぐあいで一つ意見が出ていたのですが、年間パスポートを買いたかったのだけれども、とても入り口のところで混んでいて、とてもではないが、そこまで目がいなくて、結局観覧券だけ買って入ったという方も、何人かそういう意見もありましたので、その辺の入り口の混みぐあいも見えてさばいていただければなと思います。

おおむね本当に八王子の皆様は喜んでくださっています。

安間教育長 ありがとうございました。

ほかに委員の方々いかがですか、よろしゅうございますか。

ちなみに年間パスポートを買ったような人で、市外の方で買われた方の数などというのは、調べれば分かるのですか。

叶こども科学館長 年間パスポート購入者の市内在住・市外在住の割合ですが、調べましたところ、購入者のおおむね 8 割が市内在住の方、残り 2 割が市外在住の方でした。

安間教育長 ありがとうございます。

いいデートスポットになるといいかもしれません。前回もちょっとお話ししましたけれども、このトワイライトプラネタリウムに関しては、いろいろな条件もあったのですが、ここにニーズがあるのかないのかというのも、今後も引き続き研究をしてください。

よろしゅうございますね。

それでは、こども科学館からの報告、承っておきます。

続きまして、図書館部から報告をお願いします。

太田中央図書館長 それでは、市政 100 周年記念事業姉妹都市図書館交流展示の実施結果について御報告いたします。詳細につきましては、担当の佐藤主査より御説明いたします。

佐藤中央図書館主査 それでは、御説明いたします。資料をご覧ください。

まず、報告趣旨でございます。先般、本定例会に御報告させていただきましたが、市制 100 周年記念事業として市民が姉妹都市についての関心を深めるとともに、郷土の魅力を再発見するきっかけづくりとなることを目的に実施いたしました姉妹都市図書館交流展示の結果について報告いたします。

2 の報告内容を御覧ください。実施期間は平成 29 年 7 月 21 日から 8 月 12 日まで。場所は中央図書館地下展示室で開催し、730 人の方に御来場いただきました。御来場いただいた方のアンケートからは、なぜこの四都市が姉妹都市なのか歴史的背景を知ることができてよかった。姉妹都市が四つもあるとは知らなかった。それぞれの市を大変身近に感じることができ、自分が住んでいる八王子についてももっとよく知りたいと思うようになりました。八王子市の姉妹都市についてよく分かりました。自由研究のテーマについて迷っていましたが、姉妹都市についてにし

ようと思われました。などの御意見をいただいたところでございます。

続いて展示内容についてでございますが、報告内容(5)展示物として会場の写真を掲載いたしました。今回の展示では、八王子市市制100周年記念展示コーナーと各姉妹都市ごとに四つのコーナーを設けて展示を行いました。

(5)のアの写真は、八王子市市政100周年記念展示コーナーの様子です。「千人同心」「北条氏と城」「八王子市の歴史」に関する図書館資料と、市制100周年記念事業関連ポスターやガイドブック、パンフレットなどを展示いたしました。

資料の表面裏面にまたがって掲載しております(5)のイの写真は、苫小牧市、日光市のコーナーの様子です。千人同心をテーマに借り受けた図書館資料及び観光ポスター、パンフレットを展示いたしました。

裏面の(5)ウの写真は、小田原市寄居町のコーナーの様子です。「北条氏と城」をテーマに借り受けた図書館資料及び観光ポスターやパンフレットを展示いたしました。

また(6)姉妹都市における交流展示の実施状況ですが、苫小牧市立図書館及び日光市立図書館においても交流展示が実施され、実施機関については記載のとおりでございます。本市からは、千人同心に関連する図書館資料及び市政100周年関連のポスターや観光パンフレットを提供いたしました。引き続き、このような展示を通じて市民の皆様には姉妹都市について関心を高めていただき、より郷土の魅力を知っていただけるよう取り組んでまいります。

報告は以上になります。

安間教育長 只今図書館部からの報告は終わりました。

本件について御質疑はございませんか、よろしゅうございますか。

それでは、報告として承らせていただきます。

安間教育長 以上、報告は終わりましたが、ほかに何か報告する事項等はございますか。

これで公開の審議は終わりますが、委員の方々何か御提案等はございますか、よろしゅうございますか。

それでは、星山委員が9月30日をもって任期満了となりますので、定例会への出席は本日が最後となります。皆様の前でお話をいただく機会も今回で最後となるかと思っておりますので、この場をおかりいたしまして、星山委員から退任の御挨拶をいただきたいと思っております。

星山委員 任期が4年ということで、私にとりましては初めての教育委員のお仕事で、今思い返せば本当にあっという間だったなというふうに思います。4年間の間に多くの方が入れかわって、いろいろな変化もありましたけれども、一貫して八王子の子どもたちや地域の方や、また教育委員会の方、多くの方たちと関わりができて、みんなで子どもたちのことを考えられたなど、とても私にとっても良い時間だったなというふうに思います。

いろいろなところで何々ファーストというふうに使われていますが、私はどこの市においても子どもたちが一番大事だろうと思っております。そういう意味では、八王子市ではぜひチルドレンファーストにさせていただいて、どんなことをするのも、私たちはいつか子どもたちに譲っていくわけですから、子どもたちのことを一番に考えるということ、どんなことをしていても忘れてはいけないのだろうなというふうに思っていました。

学校教育、それから地域のいろいろな教育の中でたくさんの課題があるということとはみんなよく理解していることですが、やはり子どもたちが幸せになるということとは私たちも居場所があり、良い地域づくりにつながるという、全て循環しているのだなということも日々感じておりますので、これから先も子どもたちの幸せというのは私たちとずっとつながっていることなのだと感じ、とても人情豊かなすてきな市であります八王子市の子どもたちが、これから先もみんな一人ひとり幸せであると良いなというふうに願っています。

先日、たまたま若い先生方の研修会がありまして、いろいろな話を研修会終わった後、新任先生のほうから御相談がありました。いろいろ悩みがあって、一人ひとりの生徒さんにどうやって対応して良いか分からないのだけれども、自分はとても悩んでいるというようなことで、時間が終わりましたもずっと立ち話で、一生懸命自分の気持ちを話してくれる先生方が何人もいらっしゃいました。

最後の別れ際に、いろいろ大変なこともあって苦しいこともあるのかなと思いま

したが、一人の先生が、僕は決めたのです、結局この3年間たまたま中学校の先生でしたが、この出会った子どもたちが3年間、僕はとにかくほめてほめて愛情豊かに接するしかないと決めましたと言って、ほかの若い先生たちといろいろ悩みはありそうでしたけれども、とても晴れやかな顔で帰っていかれて、とても感動的というか、若い人も頑張っているのだなというふうに思いました、これから先、教育委員はもう今日で定例会はおしまいです、子どもたちだけではなく、子どもたちのために頑張っている先生やお父さん、お母さん、そして教育委員会の方たちのことも、自分のできることは本当に少ないと思いますけれども、ずっと応援していきたいなというふうに思いました。

後ろ姿を見送るといのは何というか、何歳かになればみんな経験するようなことかもしれませんが、私たちは弱いものに生まれて、いつか弱いものに帰っていくわけであって、教育というのは、そこを循環しているだけだと思うのです。私は、さっきも出てきましたが、全ての子どもたちは全ての方たち、弱い者も強い者も小さい者も大きい者も、みんな回ってきているだけだろうと、循環しているのだらうと思っていますので、そういう方たちが、今助けた子どもたちが、またやがては助けてくれる。私たちのことも助けてくれるかもしれないなと思っていますし、違う者を排斥したり仲間外れにしたりするのではなくて、違う者であっても自分と考えが合わない者であっても、どうやったら助けられるかとか仲間になれるかということを伝えることが教育ではないかなと私はずっと思ってきましたので、そういうことを大切に關われた4年間だったなと、そのことに関してとても感謝しています。

最後にですが、私はもともと八王子にそんなに多くの知り合いがいたわけではありませんが、この何年かの中に本当に知り合いが多くなりました。どこの学校に行きましても、どこの地域に行きましても、市役所におりましても、いろいろなところで声をかけてくださいます、知らないうちにすごくたくさんの方と出会ったなと思います。出会いは役が終わってもずっと残っていくものだと思ひますし、私がここでいただいた宝物は、また違う形でお返しできたら良いなというふうに思っています。

いろいろな思いがあつて長くなってしまいましたけれども、以上で挨拶にかえさ

せていただきます。4年間どうもありがとうございました。

安間教育長 ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から星山委員に贈る言葉をいただきたいと思います。

まずは村松委員から。

村松委員 星山委員、4年間本当にありがとうございました。

私の子どもが小学校に入るころ、走り回っている子ですとか暴れている子ですとか、そういう子たちは、何で暴れているのだろうかというふうに思っていた時に、10年ぐらい前ですか、ちょうど星山先生の本ですとか話とか、そういうものを聞かせていただいて、こういう特別支援ということがあるのだということで初めて認識したのを覚えています。

それからPTAの会長を仰せつかっていたころ、いろいろな方たち、PTAの会長さんたちに特別支援の大切さですとか、どうやったら、もっと勉強できるのだろうかということも話し合っていた時に教育委員になりまして、星山先生に2年間、本当に大切なことを学ばせていただきました。

また、個人的にもいろいろな人生経験をお話しさせていただいて、自分も救われた2年間でした。もう、定例会にお見えにならないというのは本当に寂しいのですけれども、でも、今後も八王子の子どもたちのために、先生方のためにお力添えをいただけるということをお願いしたので、どこかで、またお話をしたりするのがとても楽しみです。

いろいろ私も言いたいことがあるのですが、今日は恥ずかしながら星山先生が御退任ということで1句詠みたいと思います。「せせらぎのほとりにうけるみおしえの恩師の真心たもちまもらん」ここで受けた教え、大切なこと、真心、星山先生の真心、それを私たちはこれからも受け継いで守っていきますという詩です。本当に残念ですが、これから、また星山先生も御活躍、また御健康を祈っておりますので、頑張っていたいただければと思います。ありがとうございました。

柴田委員 星山先生、私は1年間でしたけれども、大変お世話になりました。ありがとうございました。

星山先生から多くのことを学ばせていただきました。特別支援についての技術とかテクニク的なことにとどまらずに、特別支援、先ほど弱い立場にいるお子さん、

全ての方たちに愛をかけるというなお話をいただきまして、子どもたち、それから悩みを抱えている保護者に、まずは寄り添うということを経山先生から教えていただきました。星山先生が始められたF i k aキャラバン、八王子市で保護者にとって本当に勇気づけられる取り組みだというふうに思います。このF i k aキャラバンが、これからどんどん成長して行って、保護者同士が支え合うような仕組みがしっかりと根づいていったら良いなというふうに思います。

星山先生には、またそういったところから八王子市に御尽力いただけるものと期待しておりますので、今日で定例会ではお別れですけれども、引き続き末永くよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

大橋委員 星山先生、どうもお疲れさまでございました。

非常に個人的なことになりますけれども、私は学校にありました時に、特別支援学級のある学校でございました。そこに星山先生が講師としておいでいただいて、御指導いただいたことがございます。特別支援の指導の技術というのでしょうか、そういうことだけでなく、特別支援教育のあり方、そういうものを教えていただいて、ガラッと私の見方、考え方が180度変わった。そういう経験をしました。

ここに来まして、今年4月からですが、教育委員として星山先生と御一緒にさせていただく中で、また特別支援教育についての見方、考え方とともに、もう少しもっと広い教育行政についての見方、考え方、これを星山先生から教えていただいた、そのように感じているところです。

わずか教育委員としては5カ月しか星山委員とお仕事できなかったのは非常に残念に思っています。まだまだいろいろと教えていただきたいことがあったのですけれども、ぜひ今後とも八王子市を見守っていただくのと同時に、困ったことを御相談したいというふうに思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

本当にどうもありがとうございました。

安間教育長 それでは、私からも御礼の言葉を述べさせていただきたいと思います。

星山先生は多摩ニュータウン地区の校長先生方と一緒に、地域の学校で教員研修と学校サポーターの育成に御尽力をいただくとともに、平成24年7月から八王子市第二次特別支援教育推進計画の策定委員兼スーパーバイザーとして本市の特別教

育の仕組みに御参加をいただきました。その時に先生から、特別支援教育には教員や地域の人を育てることと正しく学べる環境を整えることという御指導をいただきました。現在の第三次特別支援教育推進計画にもしっかりと、そのことが引き継がれております。

そして平成25年10月より教育委員に就任されたわけございまして、先ほどもお話がありましたが、八王子市には10年以上、その専門的見地からお力添えをいただきました。教育委員といたしましても、専門的な知識と考え方を必要とする特別支援教育の研修において、職層ごとにこれまでは実施していたわけございませけれども、一人でも多くの先生方に学び、特別な配慮や支援を必要とする児童・生徒に適切な関わりができるように、そのような強い思いが年間8回のシリーズ化した研修へと強化をさせていただいたのは先生のお力です。

また実際、その研修においては先生から直接御指導もいただきました。さらに、こういった研修を、インターネット環境を活用した特別支援教育に関する研修、この充実についても御提案をいただきまして、今現在、二つの学校間をインターネット回線で結んでリアルタイムで講義を受講する。このシステムは先生の御提案であります。おかげで多くの受験生が、特別支援教育の理解を深めていくことができました。教員の資質能力を高めるとともに、研修の企画、運営、方法についても先生のアイデアを本市の中で生かさせていただいたところでございます。

また、さらに、かねてから教育支援の重要性を唱えまして、悩んでいる保護者を支援する人材育成を進めてこられました。先ほどもお話がありましたが、星山委員から学んだ方々が市と協力して平成27年度に家庭教育支援事業を開始いたしまして、子育てや学校に関する悩みを持つ保護者の負担を軽減し、家庭の教育力の向上の一助となりました。

星山先生の御功績に、市民にかわりまして心より御礼を申し上げます。

このたび、御事情により退任をされますが、教育委員としてよりもフリーのほうが活動しやすいと、つい先日、私に言っていただきました。本当にうれしく、頼もしく思っております。

先生の御功績に感謝いたしますとともに、今後も八王子市のためにお力添えを心よりお願い申し上げまして、御礼の言葉とさせていただきます。4年間、本当にあ

りがとうございました。

それでは、星山委員のこれまでの御貢献に対しまして感謝の気持ちを込めまして、改めて拍手を送りたいと思います。

安間教育長　以上で公開の審議は終わりますが、委員の方から何かございますか、よろしゅうございますか。

それでは、ここからの審議は非公開となりますので、傍聴の方は退席をお願いいたします。

再開は、10時50分からとさせていただきます。

〔午前10時42分休憩〕